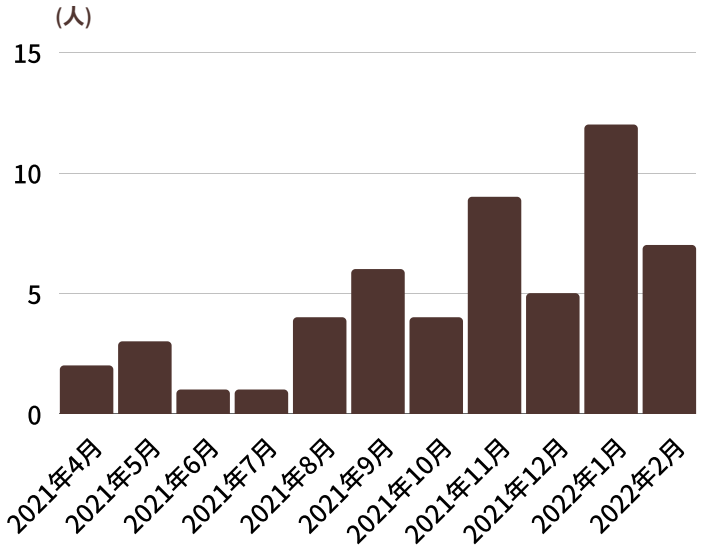
Annual Report

2021.3～2022.2

みなさまに支えていただき無事１年間活動をすることが出来ました

一般社団法人Thoughtful Gift

支援内容

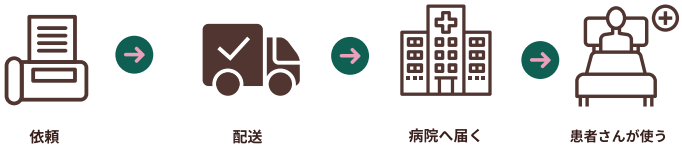


13 病院に入院する

51 人へお届けしました

2021年4月から始めた「精神科入院する方へ無償で必要な物を送る」ミーアの贈り物という活動ですが、11カ月で13病院に入院する51人の方へお届けすることが出来ました。行政、福祉団体、家族会、ソーシャルワーカー会などへの活動紹介で、少しずつ依頼は増え、現在月５～８件ほど依頼があります。
送っている物は綿棒や洗剤などの日用品から衣類まで約40種類です。始めた頃は物資に入れている物の内、寄付で準備出来たものは数種類でしたが現在は約30種類ほどが集まっています。

「どんなものが来るのか分からないので依頼出来ない」という病院関係者の方からのご意見もあり、まずサンプルとして１人分お送りして依頼を検討してもらう働きかけを５病院に行いました。他の病院の評判を聞いて依頼していただけることもありました。



依頼いただいた患者さん、病院のソーシャルワーカーさん、看護師さん、助手さんからお手紙やメールをいただき、この活動がみなさまのお役にたっていることを実感しております。
何も持たずに入院された場合、もちろんご本人も困ってしまいますが、物を準備するご家族や医療関係者さん方のご苦労も感じることがあります。私達が代わりに準備してお送りすることでご本人の周りでサポートする方々の負担も減らせていければと考えております。

"物の１つ１つにある気配り配慮がありがたく、非常に役立つツールで無駄なく使用させていただきました。退院も決まり改めて生活をスタートさせてもらう運びとなりました"
依頼者さんから

"届いた荷物を披露してくださる等、コミュニケーションのきっかけにもなりました。"
ソーシャルワーカーさんから

ご寄付いただいた物

この１年間でAmazon欲しいものリストを通して個人の方々から約30万円近くの物がご寄付として届きました。
当初の想定をはるかに超えるご寄付物資が集まり、届くたびに驚いておりました。
私達が”欲しい物”として選んだ物一つ一つに理由があります。
例えばカルピス、お湯が使えないこともあるので水で薄めるタイプの飲料をお送りしています。
液体が持ち込めない場合もあり、持ち込めたとしてもアルコールの入っていない物(アルコール依存症の方もいらっしゃいます)が望ましいため、化粧水などはノンアルコールタイプ、トラベルセットサイズを選んでいます。

また、NPO法人もったいないジャパン様から下着や使いかけのテレホンカードを大量にご寄付いただきました。
閉鎖病棟では外部との通信手段として公衆電話しか使えない場合があり、テレホンカードはとても助かるとのお声をいただいております。
衣類は購入している割合が高いのですが、
TVCM制作会社様から1度または未使用の衣装を12月から２カ月に１度、100着近いご寄付をいただいております。

引越会社から
段ボールの寄付

TVCM制作会社から
衣装の寄付

美容室から
雑誌の寄付

発送用段ボールのご寄付

個人の方からのご寄付

NPO法人もったいないジャパン様からのご寄付

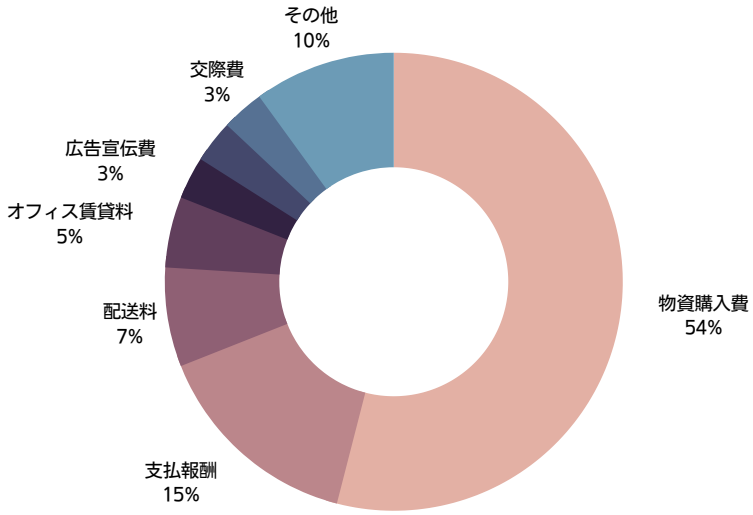
収支について

収益：約60万円

・Amazon欲しいものリストを通しての現物寄付は販売価格で収益計上しています。
・パルシステム神奈川様からの支援金と賛助金(約30万円)を収益計上しています。

費用：約100万円

・物資の購入費の内、半分ほどが衣類にかかる費用です。
・配送料は支援物資にかかる宅配便代です、発送件数と比例して今後も増える予定です。
・オフィス賃貸料はバーチャルオフィスを利用しているため少ない割合となっております。
・その他には備品購入費、他団体のセミナー参加費、通信費などが含まれております。



・支払報酬割合が多いですが、これは初年度のため開業費としての専門家報酬と、弁護士相談料、税理士顧問料が主な内訳で、役員報酬は計上しておりません。

支援以外の活動

2021年9月

・一般財団法人町田市地域活動サポートオフィス主催のまちだづくりカレッジを受講
・かわさき市民活動センター主催のごえん楽市に参加

2021年10月

・特定非営利活動法人フードバンク浜っ子南　代表理事下山さんと交流会実施

2021年12月

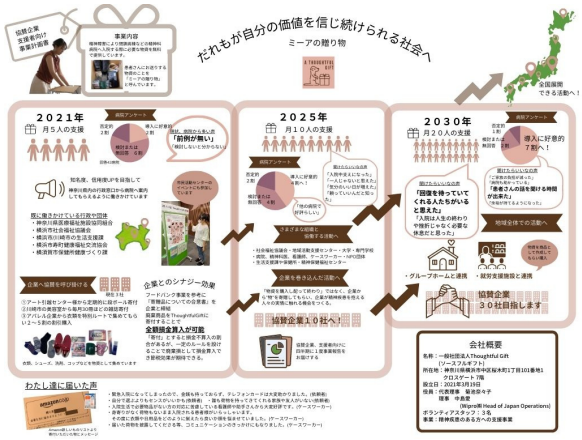
・特定非営利活動法人シルバーリボンジャパン　代表関さんと交流会実施
・一般社団法人Omoshiro　代表勝呂さんとオンライン交流会実施
・中部地域生活支援センターはるかぜ　施設長田中さんと交流会実施
・15人制女子ラグビー元日本代表選手　村上愛梨さんと交流会実施
・つなぐっどKAWASAKIにインタビュー記事掲載
・パルシステム神奈川　第2回地域団体ミーティングに参加

2022年1月

・国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター　精神保健研究所
　地域精神保健・法制度研究部　藤井千代先生、研究員の方々と交流会実施

2022年2月

・神奈川新聞にインタビュー記事掲載
・パルシステム神奈川　第4回地域団体ミーティングに参加



まちだづくりカレッジで製作した事業計画書

フードバンク浜っ子南様の
活動場所にて

今後のイベント予定

2022年6月

・横浜開港祭ブース参加(シルバーリボンジャパン様と合同)
・活動説明会実施

2022年8月～9月

・15人制女子ラグビー元日本代表選手　村上愛梨さんとオンラインイベント開催

市民活動応援プログラム助成決定
↳23万4千円の助成金をいただきました
賛助金カンパチラシ掲載
↳172人から8万2千円ご支援いただきました

協賛企業様

企業ご担当者様からのお声
「事前想定以上にご活用頂けることを皆もとても喜んでおりました。」
「私たちの力では知り得なかった方々が、衣類をご活用して頂いているのは我々としても大変嬉しく思っております。」

２０２２年２月の神奈川新聞朝刊に代表インタビューや活動内容について掲載いただきました。

ボランティアメンバー

2022年3月に参加したかわさき市民活動センター主催のつながるマルシェにて

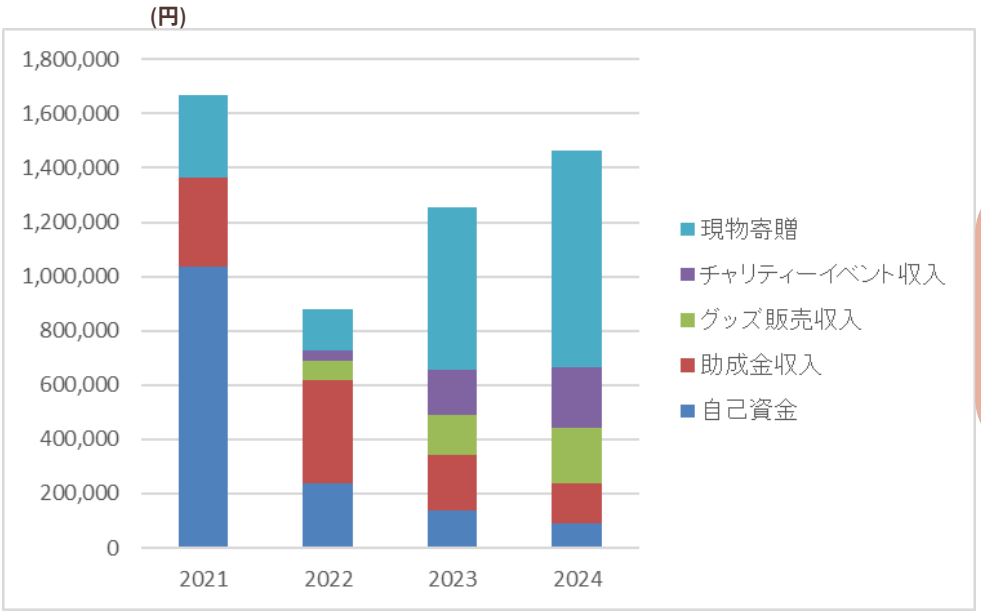
もともと会社員経験しかない同性パートナーの菊池と中島２人で始めた活動ですが、１年間で８名のボランティアさんが参加してくれるようになりました。
大学生、会社員、大学で非常勤講師をされている方やパーソナルトレーナーの方までさまざまなバックグラウンドを持った方にご参加いただき、多角的な視点を活動に取り入れることが出来はじめました。

この１年間はオンライン中心で動いており、月１回のオンラインミーティングで交流してはいるものの実際に会ったことがないメンバーもおりました。２０２２年３月初めての地域のイベント参加でやっと顔を合わせることが出来、あらためてすばらしいボランティアメンバーに恵まれていることを実感いたしました。

また、期間限定のプロボノ(スキル)ボランティアさん３名にもご参加いただきました。各週のオンラインミーティングで私達の理念や将来像をご理解いただき、企業へ協賛をお願いする際のプレゼン資料を３か月で作り上げていただきました。２０２２年１月にはプレゼン資料にフィードバックをいただくためのオンラインイベントも開催していただきました。
２０２２年４月からは発送場所が桜木町となり発送作業ボランティアメンバーも募集を始めております。オンラインでもオフラインでも理念に共感いただけるメンバーと活動を続けていきます。

わたしたちの三か年計画

Thoughtful Giftが目指す未来とは、どう活動を続けていきたいのか



現金で購入している現状から、企業と協働して「衣類ロス・資源ロス」を解消する１つの選択肢としてのサスティナブルな活動へと成長させたい！

第２期

支援数は年度合計120件を目標として、神奈川県内の15病院～20病院で展開していきたいです。
チャリティイベントや物販で現金収入を10万円ほど作り、助成金を35万円程取得(既に**2022年４月かながわ生き生き市民基金から約30万円の助成金、病院ソーシャルワーカーさん方から5万円以上のご寄付をいただきました**)、自己資金と合わせて70万程の現金を確保する予定です。支援物資の内企業等からの現物寄贈割合を30%に増やし、現金購入の支援物資を減らしていく予定です。そのため、2021年度に**企業との協働用に合意書(弁護士作成)や誓約書を作成しました。**2022年度は企業とどう関わりを持てるか模索し結果を出して行きたいと考えています。

第３期

支援数は年度合計150件を目標として、神奈川県内の20病院～30病院で展開していきたいです。
チャリティイベントや物販で収入を30万円ほど作り、助成金を20万円程取得(有償ボランティア分は未確定)、自己資金と合わせて65万程の現金を確保する予定です。**支援物資の内企業等からの現物寄贈割合を50%に増やし、現金購入の支援物資を減らしていく予定です。**支援数の増加割合よりも企業からの現物寄贈が増えれば現金の支出は減る予定です。

第４期

支援数は年度合計180件を目標として、神奈川県内の30病院～40病院で展開していきたいです。
チャリティイベントや物販で収入を40万円ほど作り、助成金を15万円程取得(有償ボランティア分は未確定)、自己資金と合わせて60万程の現金を確保する予定です。
支援物資の内企業等からの現物寄贈割合を70%に増やす予定です。現金で支援物資を購入する割合は減ったものの支援件数が増えるとともに**運送費用やボランティア関係費用がかかると考え現金支出は増える**と思われます。現金収入、物資の現物提供を得る仕組み作りを進めたため助成金に頼らなくても**自走できる団体として本格的に活動**出来始める年とする予定です。

	課題	アプローチ	ゴール
物資	物資を寄贈いただける企業の不足	・SDGsへの取り組みとして廃棄予定製品の寄贈を企業へ提案 ・企業側のデメリットを解消	・企業側にデメリットが無い寄贈の仕組みづくりの確立 ・購入に頼らず支援物資が準備可能
人材	発送作業を行う人員の不足	・大学と連携して大学生ボランティア募集 ・社会復帰の一環として参加出来る仕組み作り ・有償ボランティア化	・発送人員の安定確保 ・新しい社会復帰ステップの一つに ・ボランティアの経験を就労後などに活かしてもらう
資金	発送にかかる運送費・人件費の確保	・シルバーリボングッズ販売・チャリティイベント実施 ・Webサイトでの寄付金受付・公益法人化を目指す ・有償ボランティア費用の助成金活用	・多種類の資金源の確保

・全国のNPO・病院・行政を巻き込んだ活動へ
・活動で得た知識やスキームを展開し他団体で再現可能な活動へ
・精神科に限らず出産や事故など様々な理由の入院支援へ応用出来る活動へ

≪物資≫

現在：活動費用の半分以上50万円以上物資として購入しています

今後：金銭的負担が大きい衣類を中心に企業のSDGsへの取り組みとして下記のようなものを寄贈してもらう体制づくりを目指します。

・販促品、ノベルティの余剰在庫
・デザイン変更、試作品、規格外製品など使用に問題ないが廃棄予定の製品
・閉店、リニューアルなどで生じる廃棄商品

ThoughtfulGiftに寄贈する際、企業側は寄贈した製品代金を損金(税務上の費用)として計上出来ず企業側にとって寄付がデメリットとなってしまうこともあります。そのため、ThoughtfulGiftから国税局に税務上の扱いの質問(事前照会)をするなど行いました。損金計上可能かどうかは企業ごと、寄贈品ごとに異なりますが、企業間との合意書を作成するなど出来る限り企業側のデメリットを解消しメリットになるよう一緒に考えていきたいです。

≪人材≫

現在：８名のボランティアが参加しておりますが、オンライン参加が主なため月６回の発送作業を行うには足りない状態です。

今後：周辺大学ボランティアセンターへ登録し大学生ボランティアを募る、大学と連携して学生の体験として発送作業を手伝ってもらう、退院後の方や復職に向けてリワークに通う方などを対象に社会復帰の一環として有償で参加してもらう体制をつくることを検討しています。

≪資金≫

現状：年間配送代７万円、オンラインの活動が多くボランティア費用はほとんどかかっていません

今後：年180件支援したとすると30万円ほどの配送費に加え、ボランティアの交通費、有償ボランティア費用など今後も資金が必要になります。そのため、Webサイトでクレジットカードやコンビニ決済での寄付を募るページを2022年5月から新設しました。また、同じく5月からシルバーリボングッズをWebサイトで販売、売上の一部を運営費用に使います。

有償ボランティア費用については助成金などを利用できないか検討しています。

今後とも
ご支援・ご協力のほど
よろしくお願いいたします！

A THOUGHTFUL GIFT

ミーアの贈り物

会社概要

【名　称】一般社団法人Thoughtful Gift（ソースフルギフト）
【所在地】神奈川県横浜市中区桜木町1丁目101番地1 クロスゲート7階
【設立日】2021年3月19日（2月決算）
【事　業】精神疾患のある方への支援事業
【役　員】代表理事：菊池　奈々子
　　理事：中島　愛（Wipro㈱ Head of Japan Operations）
【ボランティア】：８名

だれもが自分の価値を信じ続けられる社会へ